

生生堂養生論

全



17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44

琴溪中神先生著

生三堂養生論

薩藩

喜多村俊宅藏

養生論序

昔者藥師如來。以大通力。
放琉璃光明。遍照三千世
界。誓曰。我欲救一切衆生
疾苦。其願廣大。其法不可
測。固非凡夫所知也。然世間

養生論序
文化丁丑首夏

東都 喜多村 鼎撰



養生論序
淡海 琴溪中神先生口訣
信陽 坂井貞 道仙
北總 大塚健 碩庵 記

養生堂養生論

淡海 琴溪中神先生口訣

門人 信陽 坂井貞 道仙
北總 大塚健 碩庵 記

夫人ハ身體髮膚ヲ父母ニ受テ敢テ毀傷サルヲ孝ノ始トシ
身ヲ立道ヲ行ヒ父母ノ名ヲ顯スヲ孝ノ終リトスト聖人孝
ノ教ヲ示シ玉フ其孝ハ即身ノ養生トナル第一ナリ然ルニ
孝行ニモコ、口ユベキコアリコ、口ヘサレハ思ハサル不
孝トナルナリ世ニ傳ル廿四孝ノ中ニ王祥ト云モノ其母生
魚ヲ好シニ嚴冬ニテ水氷リ魚ヲ得ルノタツキナシ王祥其

所ニアラス然ル所以ノ者ハ譬ヘバ此ニ人アリ其人ノ顔ヲ
見知ラサルニ人ニ知ラシメント欲メ面ハ長ク色ハ白眉ハ
細ク眼ハス、ヤカ多口ハ小サク耳ハ大ク鼻ハ高ク齒並揃ヒ
ナド、委ク語レ凡未タ其人ヲ見サルウチハ真ノ其顔ヲ
知り得ルコトアタハシ文章ニツヅリ畫圖ニ寫シテモ未タソ
ノ人ヲ見子ハイツクンゾ其真面目ヲ悟リシランヤ唯一度
ニテモ面會サヘスレバ是誠ニソノ真物ヲ知レルナリ醫道
モ是ト同シ書ヲ以テモ傳ヘラレズ言語ヲ以テモ傳ヘラレ
又モノナリ故ニ古者必ス師ニ從テ親クソノ口授而命ヲ受
テ學ビシナリ然ルニ漢時代ヨリ今ニ至ルマデ書物ニテ傳

ヘラル、モノト思ヒ幾萬卷ト云數ノ醫書出来テ終ニ醫道
獲シ人ヲ殺スノ道トハナレリ若シ書ヲ以テ人ノ病ガ療セ
ラル、者ナラバ數萬卷ヲ讀ニ及ハズ千金方一部ニテモ濟
ベシ一兩月千金方ヲ讀メバ天下ニ愈ヘサルノ病ナキヤウ
ナレ凡真ノ病人ニコレヲ施シ見ヨ一人モ愈ルモノナシ是
現ノ證據ナリ然ルニ今ノ醫者醫ヲ學フニ章句字義典故等
ノ穿鑿ヲ主トメ書ヲ讀ムコトヲ務メトス誠ニ木ニ縁リテ魚
ヲ求ルヨリ甚シ章句字義典故濟ハ醫學成就セリト心得テ
而メ人ニ治ヲ施ス故ニ達者ナル者ハ病シメ輕病ハ重カラ
シメ重病ハ殺ス豈不哀乎サレバトテ今ノ世ハ天下蕩々皆

東ハ苦雷ハ落ル物舟ニ乗レハ溺ル、者盜ハ這入モノ水火ノ難ハ出會事アルモノ逢ハ別レ生ハ死花咲ハ散ルモノト云道理ヲ以テ精神ヲ充滿サセ置ハコレニ過タル大養生ハナキナリ灸ヤ湯治ヤ俗醫ノ藥ヤ呪驗祈禱ヨリモ各其職ヲツトムルコトニ精神充テ満ストキハ長壽スルハ極リタルモノト知ルヘシ穴賢穴賢

養生論跋

自儉家之言與醫方相曉
難也。輕身益氣不老延年
之說紛々競興。服某藥則
益精血。服某藥則養神氣。